教育臨床心理学（木４）練習問題解答例

１．

精神分析理論のうちの一つで、個体の維持や種の保存に役立つ精神的エネルギーとしてのリビドーをその基礎に据える。そのうえで、このリビドーは口唇期、肛門期、エディプス期、潜伏期、性器期の各発達段階において体の異なる部分に現れるが、それぞれが乳児期から青年期にかけて満足されれば問題はない一方で、満足されず固着を起こせば成長後も度々その段階まで退行し性格上の問題を生じる、とした理論。

＜論点＞

・基礎概念としてのリビドー

・発達段階に応じてリビドーは体の異なった部分に現れる

・リビドーが満足されない（固着を起こす）と性格上の問題が生じうる

２．

もともと高い自尊心に基づく誇大な自己イメージをもっているため、相手に関係を拒否されても最初は自尊心方略により状況を都合よく解釈して相思相愛を疑わず、それゆえにつきまとう。しかしながら、そもそもその過剰な自尊感情には裏付けがないために他者からの批判には敏感であり、そのうち相手の自分に対する嫌悪感を認めざるを得なくなると、今度は自尊心を維持するためにこれを傷つける相手の存在を消す必要に迫られ、一転して激しい攻撃や脅迫行動に出る。

＜論点＞

・高い自尊心に基づく誇大な自己イメージをもつ

・裏付けがない

・最初は都合よく解釈する（自尊心方略という用語を使うとよい）

・しかし自尊心を維持するために一転して相手を否定したいと思うようになる。

コメント；出題テーマが「心理」なので、「付きまとう」「攻撃、脅迫行動」といった具体的行動には触れなくてよいと思われる。ここでは文章構造の都合により含めたに過ぎない。

３．

虐待を受けた乳幼児と親との間には、信号行動や接近行動による乳幼児側から親に向けられた愛着行動に対し、親が適切に応答することで成立するアタッチメントが十分に形成されない。その結果、乳幼児は他者に依存できるという信頼感を獲得できず、あきらめが早い、自己評価が低いなどの性格上の問題としてのちの人生にも悪影響を及ぼしかねない点。

＜論点＞

・アタッチメントが十分に形成されない

・性格上の悪影響として長く残る

コメント；アタッチメント理論に焦点が当たっているので、アタッチメントの形成過程についてやや細かく言及した。

４．

生理的早産による生存可能性の低下を受け、赤ん坊は生き延びるために大人の保護を求めなければならない。生後間もないこの赤ん坊はまだ母親とそれ以外の人との区別ができないため、無差別に振りまく信号行動としての視線がこちらに向けられている。

＜論点＞

・生理的早産により、大人の保護を求める（生物学的視点）

・視線は信号行動である

５．

第二次性徴による身体の急激な変化を契機に、青年期には自らの身体的・外見的な特徴を関心と不安の入り混じった気持ちで絶えず意識するようになり、その心理的比重も増える。その結果、他者からの視線にさらされる対人場面においては、公的自己意識の強い人を中心に赤面恐怖や自己臭恐怖、醜貌恐怖などの症状に陥りやすくなるから。

＜論点＞

・契機としての第二次性徴

・外見を絶えず意識するようになる

・その結果、対人場面で他者の視線にさらされると症状に発展しやすくなる

６．範囲外

７．

児童虐待の結果、親に取り入ろうとして顔色をうかがったり要求を先取りしたりして行動するようになり、子供本来の依存性や創造性を犠牲にしてしまうのがアダルトチルドレンである。こうした子供に対し、親が子供らしくない、かわいらしくないとして否定的にとらえ、虐待がエスカレートすることもある。

＜論点＞

・児童虐待→アダルトチルドレンのベクトル

・アダルトチルドレン→児童虐待のベクトル

８．範囲外だが興味深い。

９．

精神分析的発達理論でいうところのエディプス期にさしかかった幼児は、リビドーの要求に従い、性器の違いから男女の性の違いに興味を抱くとともに、異性の親に性愛的感情を抱いて独占したいと思うようになる。その際、異性の親の気を引くために異性の親が好きな同性の親と自分を同一視し、その考え方や行動を取り入れた結果、男児なら男らしさ、女児なら女らしさを身につける。

＜論点＞

・解答の主軸がエディプス期にあること

・リビドーの作用により、異性の親を独占したくなる

・異性の親の気を引くために同性の親と自分を同一視し、「らしさ」を身につけていく

コメント；難問。申し訳ないんですけどあんまり自信ありません。

１０．

自己愛傾向の強い人は現実的な裏付けのない誇大な自己像をもっているが、裏付けがない分自尊心は傷つきやすく、したがって他者からの批判には非常に敏感である。そのため、事態を都合よく解釈する自尊心方略を用いても自尊心の低下を免れないような批判に直面すると、自尊心を傷つける相手に対し極度に攻撃的になる。

＜論点＞

・自己愛傾向の強い人は裏付けのない誇大な自己像をもつ

・裏付けがない分、傷つきやすく、他者からの批判には敏感

・そのため、自尊心方略で対応しきれないと攻撃姿勢に転ずる

１１．

一定の自己愛を有しており、普段は多少の批判に対しては自尊心方略を働かせてかわしている、絶対的な自尊心の拠り所をもっているために比較により安心感を得ている、自己愛に応じて自己確証を懸命にやっているなどの要因により、普段は普通の子として周囲に認識されているが、自分に辛辣な批判の矛先を向けたり困難な状況を強いる他者に直面してそれが維持できなくなり、ひどく傷つけられた自尊感情を回復するために一転して暴行に及ぶ。

＜論点＞

・ある程度の自己愛はある

・何らかの方法で、普段は自尊心を維持している

・その結果、普段は普通の子

・自尊心を維持できないような他者に出会う

・自尊心回復のために相手への攻撃に突如転ずる。

コメント；20問の中で最も解答作成に困りました。普通の子に即した説明はどこにもないからです。問題の解釈によっては普通の子に即さない立場もありですが、そうすると10と全く同じになるのでその立場はとりませんでした。普通に見えているだけで、本当は誇大な自己像を抱いているという可能性もありますが、それが問題の主旨とも思えないので採りませんでした。でもこの問題は本当に自信ないです。降参。誰か良い答えが見つかれば教えてください。

１２．

①大切な彼女の「別れよう」という言葉は、決して僕がほかの女の子と仲良くしていたからではなく、彼女が両親との喧嘩でストレスがたまって不機嫌だったためについつい言ってしまったものに違いない、というように失敗事態に対しては原因を外的なものに帰属させ、また、入試に最低点で合格したのは僕の実力が本物だったからにほかならず、決してたまたま採点官の機嫌が良かったからではない、というように成功事態に対しては原因を内的なものに帰属させるというように、何事に対しても都合のよい原因帰属をすることによって、自尊心の維持あるいは高揚を目指そうとする傾向のこと。

＜論点＞

・失敗事態→外的原因帰属

・成功事態→内的原因帰属

・これらが都合のよい原因帰属であること

・自尊心の維持、高揚を目的とすること

・例は何でもよい

②自分の親戚が昼ドラの主題歌を歌っているのだと友達に言いふらし、友達の歓心をかって喜ぶというように、高い価値をもつ個人と自分とのつながりを積極的に示すことで自尊感情を高めようとする欲求のこと。

＜論点＞

・価値ある人間と自分のつながりを積極的に示す

・自尊心を高めようとする目的

・例は何でもよい

③「日本人は公共の場でも譲り合いの精神を忘れず、マナーを守る」「それにひきかえあの国の人間はやたらと戦闘的で、マナーも悪いし迷惑極まりない」というように、自らの所属集団を高く評価したり、そうでない集団の価値を下げたりすることにより、自尊感情を高揚させようとする態度。

＜論点＞

・自らの所属集団を高く評価（→そこに所属する自分に肯定的意味を与える）

・そうでない集団の価値を下げる

・自尊感情を高揚させる目的

・例は何でもよい

④自分は親の命令で医院を継ぐために６浪を強いられているが、世の中には医者になりたくてもなれず、高校を出た後時給750円で朝から晩まで肉体労働をせざるを得ない人もいるのだというように、自分が何らかの脅威にさらされたり苦境に立たされたりしたときに、自分より恵まれない他者と比較することにより自尊心の低下を防ごうとすること。

＜論点＞

・自分が脅威・苦境のただなかにいるとき

・自分より恵まれない人との比較

・自尊心の低下を防ぐ目的

・例は何でもよい

⑤僕の中学時代の友達には甲子園で活躍し、地元でもたたえられた人がいるが、中学時代の彼はいまや東大生となった僕のもとへ勉強を教えてもらいに度々来ていた、というように、人は時に友人などの優れた業績や威光を周りに積極的に示して自己評価を上げる反映と、それでいて自らの自尊心のよりどころとなる事柄については自分のほうが優れているんだよ、という比較の両方をうまく用いることで、自己評価を高く維持しようとすることがある、という理論。

＜論点＞

・他人を利用して自己評価を上げる反映

・そんなすごい人よりも自分は優れた面を持つという比較

・両者を使い分け、自己評価を高く維持

・例は何でもよい

⑥全く自信のない法学の試験を前に、「この前間違ってノート燃やしちゃったから結果悪いかもしれんなぁ」と周りに言いふらしたり、試験前にもかかわらず普段は断る他大学の友達との飲み会に参加したりするといった形で、成功する確信が持てないときに前もって自分の不利な条件を公言したり、実際に不利な条件を作り出すことにより、仮に失敗しても自尊心が大きな打撃を受けずにすむように計らうこと。

＜論点＞

・成功する自信がない

・不利な条件を公言

・不利な条件を新たに生産

・失敗しても自尊心があまり傷つかないようにする目的

・例は何でもよい

１３．

①他者からの評価、他者との比較、自分の行動の観察などによって形成された自分に対するイメージとしての自己概念を、そのさまざまな側面について肯定的に自己評価できたときに生じる感情のこと。

＜論点＞

・自己概念の定義

・肯定的に評価したときに生ずること

②インターネットの普及を背景に、趣味や嗜好の合う人たちが容易に価値観を共有できるようになったため、一般的には変わっている、あるいは否定的にとらえられるような自己概念の側面も、肯定的に考えることのできる機会が増えた。また、「自分は残忍で攻撃的だ」という自己概念も、戦闘ゲームや格闘ゲームの場では肯定的にとらえることができるといったように、インターネットに加えてゲームも社会的背景に挙げることができる。

コメント；教科書やプリントには答えがなく、先生のお話でも聞いたおぼえがない内容なので、完全な考察問題だと思われます。したがってこの解答ははただの一例にすぎません。

１４．

乳児は、信号行動や接近行動の形で親に対して愛着行動を示し、これに親が適切に反応することで両者の心の結びつきとしてアタッチメントが形成される。このアタッチメントが十分な場合は、乳児は他者への信頼感を獲得し、自信を持ち、努力を惜しまず、積極的な性格が形成されるのに対し、アタッチメントが不十分な場合は、他者に対する不信感から逃れられず、劣等感に苛まれ、あきらめがはやい消極的な性格が形成されてしまう。このように、アタッチメントが十分に形成されるか否かによってその後の人生全てに影響する性格が変わってくる点において、乳児期は重要である。

＜論点＞

・乳児期がアタッチメント形成の時期であること

・その程度により、性格形成に影響が出ること

・それゆえに乳児期が重要であること

１５．

飢えとの戦いであった昔は食の「量」に重点が置かれ、肥満は富と繁栄の象徴であるとされた。しかし食料供給が安定化した18世紀ごろからは貴族層を中心に食の「量」よりも「質」を重視する傾向が強まり、これに伴いやせた体型が理想視されるようになった。これが19世紀に入り社会が本格的に資本主義化すると、スリムな体形の人こそが自己コントロールに優れた有能な人間とされ、20世紀にかけてやせることが成功への道とまでいわれるなかで摂食障害の症例が見られるようになっていった。そして第二次世界大戦後に女性の社会進出が進むと、女性が特に「有能」であるために、またそれにより自己評価を高めるためにダイエットに励むようになった結果、過剰な努力による摂食障害の患者が急増した。

＜論点＞

・話の筋としての時系列が明瞭であること（「18世紀以前→18世紀→19～20世紀→戦後」の4本柱）

・18世紀以前→「量」に重点、肥満はすばらしい

・18世紀→価値観の変容（「量」から「質」へ）

・19～20世紀→資本主義化、有能の定義、摂食障害の発生

・戦後→女性の社会進出、有能であるためのダイエットの結果摂食障害が増えたこと

コメント；テーマは「歴史的・社会的背景」であって「摂食障害そのもの」ではないこと、字数が増えすぎることから摂食障害の中身（拒食／過食など）には立ち入ってません。

１６．

耐えられない記憶やそれに伴う一連の出来事の内容を現在の意識から切り離し、それを思い出して苦しまなくてもすむようにするための心理的な働きとして解離が起こることで、本来の人格と現在に適応するための全く別の人格とが自分の中に共存するようになった状態。

＜論点＞

・思い出したくない記憶の存在

・思い出さずに済むようにするための心理的働きとしての解離が起こる

・複数の人格が自分の中に存在する状態

・ただしそれは、適応のためである

コメント；多重人格は教科書8ページの解離性同一性障害とイコールです。ここではふれる必要はないと思われますが、勉強の際には多重人格の他の症状などとともに体系化して理解しておくといいと思います。

１７．

他者の視線や発言、あるいは他者の存在そのものが、自分自身を他者の視点から見る公的自己意識が急激に意識されるようになる結果、居心地の悪さや不快な感情といった対人不安の症状が現れる。

＜論点＞

・きっかけ；他者の視線や発言、存在そのもの

・公的自己意識の説明

・対人不安の説明

・因果関係

コメント；問題が「関連を述べよ」なので、本番でもこういう類の問題が出た時は論理構成（ここでは因果関係）が大事になってくると思います。

１８．

やせているほうが美しいという文化や第二次性徴による急激な身体の変化を背景に、強いやせ願望と肥満恐怖をもち、女性性を否定して幼児性にあこがれ、程度の差こそあれゆがんだボディイメージをもっている。また、活発に活動し、ほぼ10代の女子のみがなること、体重という具体的な数値により自己評価を上げたいと思っていることなどが類似点としてあげられる。その一方、神経性過食症の患者は、神経性食欲不振症の患者に比べて衝動が抑えきれずに過食する傾向にあり、また嘔吐や下剤の乱用による排出行動をともないやすい。このほか月経はみられること、いつも活発なのではなく気分が落ち込むことがあり病識ももっていることなどが相違点としてあげられる。

＜論点＞

・共通点；強いやせ願望と肥満恐怖、幼児性へのあこがれ、歪んだボディイメージ、活発に活動、10代の女子のみ、自己評価向上を目指す、など

・相違点；神経性過食症の患者は、神経性食欲不振症の患者に比べ衝動が抑えきれない、排出行動を伴う、月経はある、気分的に落ち込むこともある、病識はある、など。

コメント；この答案はたぶん合格点はもらえると思いますが、完璧からはちょっと遠いかもしれません。というのも、教科書でいう神経性食欲不振症の「むちゃ食い／排出型」と神経性過食症との区別がいまいちわからなかったからです。そのへんは申し訳ないです。

１９．１２の⑤に同じなので省略。

２０．

人間は二足歩行になり脳が発達しただけ妊娠期間を長くとる必要があるが、母体にかかる負担の限界により、人間の乳児はしばらくは親の養育によらなければ生存できない生理的に未熟な状態で生まれてくる。しかしながら生理的早産により生存可能性が低下した人間の乳児は、信号行動や接近行動に代表される愛着行動を通して親の養育行動を引き出す能力を代わりに身に付けた。

＜論点＞

・生理的早産の説明（脳の発達と母体の限界による、養育なしでは生存できない）

・生存可能性の低下

・愛着行動を通じて親の養育行動を引き出す能力を代わりに身に付けた

心の準備

・出題傾向からみた対策

　90分で5題なので、単純計算で１題18分。結構長いです。後で1本だけ過去問を載せとくので見てもらうといいですが、その分1題ごとの該当範囲がすごく広いです。そのときに重要なのは、たぶん自分の答案が述べているところの全体像をわかりやすくすることだと思います。上の解答例を作っていて思ったのですが、細かいことを言い出すとものすごい字数になって答えとして言いたいことがぼやけてくるんですね。あれだけの人数分の記述答案を見るのに何を言ってるのかが分かりにくい答案は明らかにまずいです。だから繰り返しになるようですけど解答の柱というか、そういうものを明確にしてあげてください。知識の整理とともにその練習ができるように論点を作りました。

　あと、上の解答例はなるべくコンパクトにまとめたつもりですが、本番は特にダラダラ書かないようにしたほうがいいです。というのも、数年前までから解答用紙は1枚しかもらえなくなっているからです。つまり、４番まで書いていっぱいになったら80点スタートということです。でもまぁ、解答用紙がどれくらいの大きさなのか知りませんが、あんまり長々と書いても分かりにくくなるだろうからクールにまとめちゃえば問題ないと思いますけどね。

　えーと、あとどうしても1問は難問が入り込むときがあるみたいですが、残りは勉強していれば取れるので別段問題ないと思います。

・このプリントについて

　このプリントは、教科書とプリントを一通り軽く復習してから練習問題を考えたときに読むといいと思います。いきなりやってもたぶん応用力はつかないと思うので。

　とはいっても、両方やってもなかなか覚えられへんし！という人はその分野を僕に言ってみてください。なぜかというと、しんどすぎてやめたんですけど本当はこの後にコラムみたいなものを作るつもりだったからです。僕は全部一回復習したうえでこのプリントをつくったので、そこでは復習の段階で考えたことや見つけたことなんかを書いて、知識を体系化してもらう（と、知識を整理しやすくなるし、おもいだしやすくなる）ための起爆剤にしようと思っていました。まぁ時間的に無理でしたし、そんなことせんでも大丈夫な人たちばっかりやと思うんで結果的には作ってないんですけど、シケ対としてできることはしますので何か苦労があれば言ってくださいね。

　どっかに練習問題の答えないかなぁと思って二人がかりで探したんですけど、なかったのでこの答えは僕が一人で作ることになりました。だから一生懸命作ったんですけどあくまで僕の独断と偏見の域を出ません。そういう要素も含んだ解答例なので、もし質問とかがあればそれもどんどん僕に言ってください。

んじゃ、過去問を貼っておきます。ちなみに問題3は範囲外です。

予想外に完成が遅くなって申し訳ありませんでした。

**2008年度冬学期　教育臨床心理学（担当：前田）期末試験問題**

受験上の注意

|  |
| --- |
| １．教科書、授業中の配布資料、ノート、携帯電話、電子辞書の持込みは一切不可とする。 ２．試験時間は９０分である。 ３．解答する順は問題順でなくてもかまわないが、どの問題の解答かわかるように、解答する際には問題の番号を明記すること。 ４．解答用紙の追加は認められない、与えられた用紙の範囲内で解答すること。 |

【問題１】精神分析理論では、子どもの道徳性はどのように発展すると説明するか。精神分析理論の発達論の観点から論述せよ。

【問題２】（１）摂食障害の歴史的・社会的背景について、１９世紀以降の資本主義社会の発展と関連させて論述せよ。（２）それを踏まえて、摂食障害患者のやせようとする心理について、認知行動療法の観点から説明せよ。

【問題３】学校で毎日、「ウザい」などとことばによるいじめを受けた高校生が、（１）高血圧、（２）持病の糖尿病の悪化、（３）不眠、（４）胃潰瘍、（５）かぜをひきやすいといった、多彩な身体症状が現れた。このことをＨＰＡ系の反応と交感神経の反応から説明せよ。

【問題４】幼児期の虐待がその後に及ぼす影響として、（１）境界性人格障害、（２）アダルトチルドレンのそれぞれについて説明せよ。

【問題５】人は自尊感情を高めようとして（低下するのを防ごうとして）、無自覚的・無意図的に「あの手この手」を使っている。この「あの手この手」の心理について次の各問いに答えよ。

［問１］栄光浴についてバランス理論を用いて説明せよ。  
［問２］内集団的態度について社会的アイデンティティ理論を用いて説明せよ。